

# ANAホールディングス株式会社 説明会

2020年3月期 第3四半期 決算説明会

2020年1月30日

取締役 執行役員  
グループ経理・財務室長

福澤 一郎



©ANAHD2020

1

- ◎ 本日はお忙しい中、2019年度 第3四半期 決算説明の電話会議にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ◎ 最初に、スライドの3ページをご覧ください。

## 目次

## 2019年度 第3四半期決算

1. 業績ハイライト	P. 3	5. 補足資料	
2. 連結決算概要		ANA国際旅客 方面別実績 (構成比)	P. 27
経営成績	P. 4	ANA国際貨物 方面別実績 (構成比)	P. 28
財政状態	P. 5	LCC 会社別実績	P. 29
キャッシュフロー	P. 6	航空機数	P. 30
セグメント別実績	P. 7		
3. 航空事業			
収入・費用	P. 9		
営業利益 増減要因	P. 10		
ANA国際旅客	P. 11-13		
ANA国内旅客	P. 15-16		
ANA国際貨物	P. 17-19		
ANA国内貨物	P. 20		
燃油・為替ヘッジ (ANA)	P. 21		
LCC	P. 23-24		
4. ノンエア事業			
航空事業以外のセグメント	P. 25		

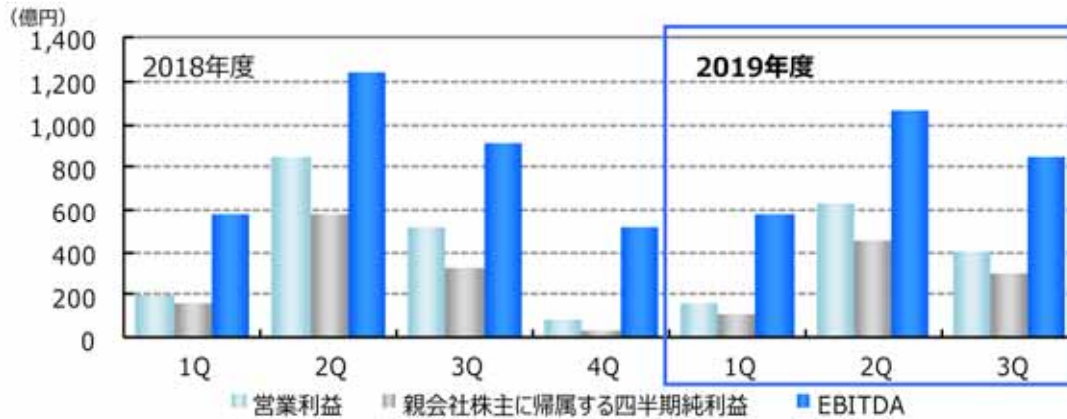
## 当第3四半期と前年度各四半期の業績比較

## 【2019年度 第3四半期 累計 (連結)】

➢ 営業利益	: 1,196億円 (前年同期比 △ 369億円)
➢ 親会社株主に帰属する四半期純利益	
	: 864億円 ( 同 △ 203億円)
➢ EBITDA	: 2,495億円 ( 同 △ 237億円)

## 【第3四半期 (10-12月期) (連結)】

➢ 営業利益	: 407億円
➢ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	: 296億円
➢ EBITDA	: 848億円



©ANAHD2020

3

- ◎ 業績ハイライトです。
- ◎ 第3四半期累計の営業利益は、前年同期から369億円減少して、1,196億円となりました。
- ◎ 四半期純利益は864億円、EBITDAは2,495億円となりました。
- ◎ 4ページをご覧ください。

## 経営成績

(億円)	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年差	FY2019 第3四半期	前年差
売上高	15,684	15,821	+ 137	5,261	△ 41
営業費用	14,118	14,625	+ 506	4,854	+ 64
営業利益	1,566	1,196	△ 369	407	△ 106
営業利益率 (%)	10.0	7.6	△ 2.4pt	7.7	△ 1.9pt
営業外損益	△ 24	28	+ 53	2	+ 4
経常利益	1,541	1,225	△ 316	410	△ 102
特別損益	△ 65	26	+ 91	△ 0	+ 65
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,068	864	△ 203	296	△ 34
四半期純利益	1,075	866	△ 209	293	△ 40
その他包括利益	4	56	+ 52	171	+ 601
包括利益	1,080	923	△ 156	464	+ 561

©ANAHD2020

4

- ◎ 連結決算の概要です。
- ◎ 売上高は、前年同期から137億円、0.9パーセント増加の、1兆5,821億円となり、第3四半期累計として、過去最高の水準となりました。  
国内線を中心に、旅客需要を着実に取り込みましたが、10月の台風影響などにより、第3四半期単独の売上高は、前年を僅かながら下回りました。
- ◎ 一方、営業費用は、506億円、3.6パーセント増加の、1兆4,625億円となりました。  
来期の首都圏ネットワーク拡大に向けて、人材・機材に関する先行投資を継続したほか、安全と品質サービスの向上に取り組んだこと、また、上期に整備関連費用が増加したことが影響しています。
- ◎ この結果、営業利益は1,196億円、経常利益は1,225億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年から203億円、約19パーセント減少の、864億円となりました。
- ◎ 5ページをご覧ください。

## 財政状態

(億円)	FY2018 期末	FY2019 第3四半期末	前年度 期末差
総資産	26,871	27,542	+ 671
自己資本	10,994	11,659	+ 665
自己資本比率(%)	40.9	42.3	+ 1.4pt
有利子負債残高	7,886	8,481	+ 595
D/Eレシオ (倍)	0.7	0.7	+ 0.0
純有利子負債残高 *	4,949	4,581	△ 368

\* 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産 (現金及び預金 + 有価証券))

- ◎ 財政状態です。
- ◎ 総資産は、前年度期末より671億円増加して、2兆7,542億円となりました。
- ◎ 自己資本は、665億円増加して、1兆1,659億円となり、自己資本比率は、42.3パーセントとなりました。
- ◎ 有利子負債は、8,481億円となり、前期末から595億円増加していますが、資金計画内の残高です。デット・エクイティ・レシオは、0.7倍となりました。
- ◎ 6ページをご覧ください。

## キャッシュフロー

(億円)	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	2,065	1,949	△ 116
投資キャッシュフロー	△ 2,077	△ 1,808	+ 268
財務キャッシュフロー	△ 535	294	+ 830
現金及び現金同等物の増減額	△ 548	434	+ 982
現金及び現金同等物の期首残高	2,705	2,118	} + 439
現金及び現金同等物の期末残高	2,156	2,558	
減価償却費	1,166	1,299	+ 132
設備投資額（固定資産のみ）	2,447	2,698	+ 250
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く）	269	665	+ 395
EBITDA（営業利益 + 減価償却費）	2,733	2,495	△ 237
EBITDAマージン（%）	17.4	15.8	△ 1.6pt

©ANAHD2020

6

- ◎ キャッシュフローです。
- ◎ 営業キャッシュフローは、1,949億円の収入となりました。
- ◎ 投資キャッシュフローは、航空機を中心とした設備投資などにより、1,808億円の支出となりました。
- ◎ 財務キャッシュフローは、普通社債や個人向け社債を発行したことなどにより、294億円の収入となりました。
- ◎ 実質フリーキャッシュフローは、665億円の収入となりました。
- ◎ 7ページをご覧ください。

## セグメント別実績

(億円)	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年差	FY2019 第3四半期	前年差	
売上高	航空事業	13,834	13,953	+ 118	4,652	△ 23
	航空関連事業	2,171	2,248	+ 77	758	+ 39
	旅行事業	1,152	1,192	+ 39	369	+ 13
	商社事業	1,142	1,144	+ 1	384	△ 7
	その他	292	314	+ 22	104	+ 6
	調整額	△ 2,908	△ 3,031	△ 122	△ 1,008	△ 70
	合計（連結）	15,684	15,821	+ 137	5,261	△ 41
営業利益	航空事業	1,492	1,121	△ 371	386	△ 95
	航空関連事業	122	113	△ 8	39	△ 6
	旅行事業	13	19	+ 5	5	△ 0
	商社事業	29	31	+ 1	12	+ 0
	その他	19	19	+ 0	4	△ 3
	調整額	△ 112	△ 109	+ 3	△ 40	△ 0
	合計（連結）	1,566	1,196	△ 369	407	△ 106

©ANAHD2020

7

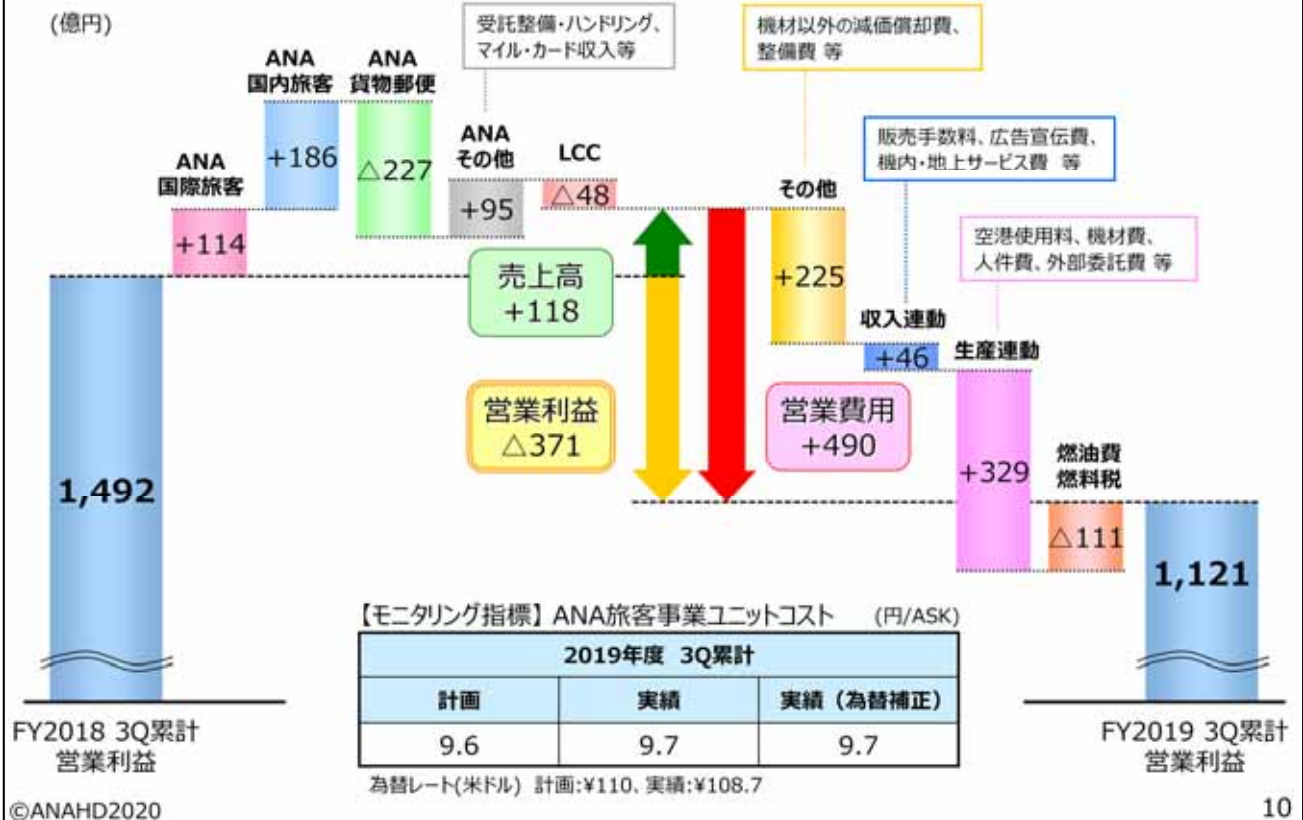
- ◎ セグメント別の実績です。
- ◎ 第3四半期累計の売上高は、全てのセグメントにおいて前年から増収となりました。
- ◎ 航空関連事業では、ANA国際線を中心とした生産量の拡大に伴い、売上高を伸ばしました。一方、今後の事業拡大に備えた空港グランドスタッフの採用を強化するなど、費用が増加したことにより、若干の減益となりました。
- ◎ 旅行事業では、昨年10月に台風の影響を受けましたが、ピーク期を中心に旅行需要を取り込んだことで、国内、海外ともに増収となりました。
- ◎ 続きまして、航空事業の詳細についてご説明します。10ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

## 収入・費用

		FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年差	FY2019 第3四半期	前年差	
(億円)							
売上高	ANA 国際旅客	4,966	5,080	+ 114	1,695	+ 39	
	ANA 国内旅客	5,348	5,535	+ 186	1,847	+ 22	
	ANA 貨物郵便	1,266	1,038	△ 227	361	△ 79	
	ANA その他	1,561	1,656	+ 95	567	+ 20	
	LCC	692	643	△ 48	181	△ 26	
	合計	13,834	13,953	+ 118	4,652	△ 23	
営業費用	燃油費・燃料税	2,574	2,462	△ 111	802	△ 56	
	空港使用料	914	932	+ 18	311	+ 9	
	航空機材賃借費	923	970	+ 47	324	+ 8	
	減価償却費	1,118	1,244	+ 126	421	+ 39	
	整備部品・外注費	1,127	1,285	+ 157	436	△ 0	
	人件費	1,550	1,591	+ 40	524	+ 8	
	販売費	810	818	+ 8	261	△ 1	
	外部委託費	1,768	1,917	+ 148	641	+ 52	
	その他	1,555	1,609	+ 53	542	+ 12	
		合計	12,341	12,831	+ 490	4,266	+ 71
	営業利益	営業利益	1,492	1,121	△ 371	386	△ 95
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	2,610	2,365	△ 245	808	△ 56	
	EBITDAマージン (%)	18.9	17.0	△ 1.9pt	17.4	△ 1.1pt	

## 営業利益 増減要因



- ◎ 航空事業における営業利益の、前年同期比較です。
- ◎ 売上高は、118億円の増加となりました。  
ご覧の通り、ANAの国際旅客で114億円、国内旅客で186億円の増収となった一方、貨物郵便で227億円、LCCで48億円の減収となりました。
- ◎ 営業費用は、490億円の増加となりました。  
国際線を中心に生産量が増加したほか、今後の事業拡大に向けた人材や機材に関する先行投資を、計画に沿って実行しました。
- ◎ これらの結果、航空事業の営業利益は、前年同期から371億円減少して、1,121億円となりました。
- ◎ なお、ユニットコストの実績については、下段にお示ししています。
- ◎ 12ページをご覧ください。

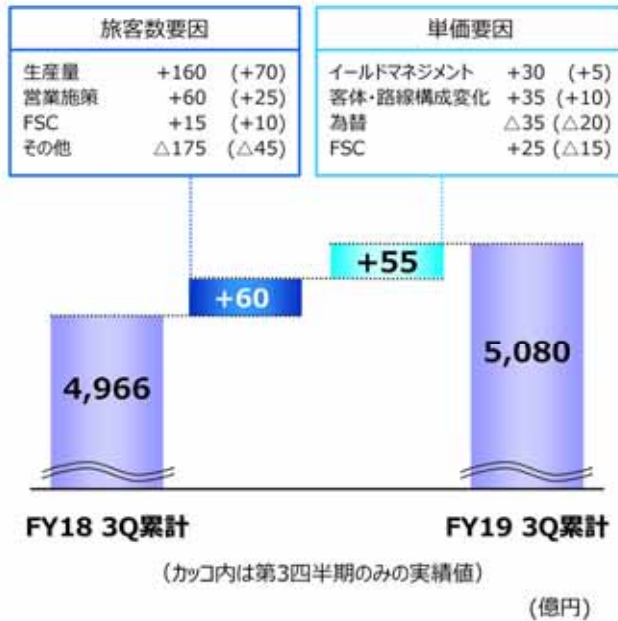
## ANA国際旅客

	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年比(%)	FY2019 第3四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	49,634	52,729	+ 6.2	17,835	+ 9.3
旅客キロ (百万)	38,298	40,502	+ 5.8	13,697	+ 9.5
旅客数 (千人)	7,642	7,733	+ 1.2	2,561	+ 3.7
座席利用率 (%)	77.2	76.8	△ 0.3pt*	76.8	+ 0.1pt*
旅客収入 (億円)	4,966	5,080	+ 2.3	1,695	+ 2.4
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	10.0	9.6	△ 3.7	9.5	△ 6.3
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	13.0	12.5	△ 3.3	12.4	△ 6.5
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	64,985	65,695	+ 1.1	66,184	△ 1.3

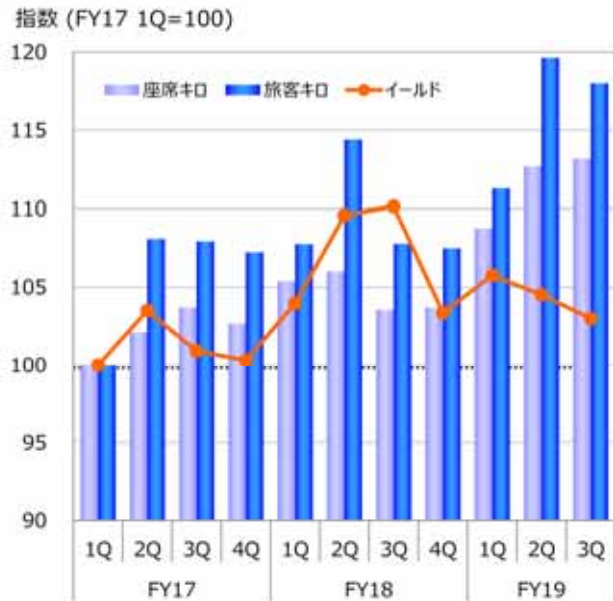
\* 座席利用率のみ前年差

## ANA国際旅客（事業動向）

## 第3四半期累計 収入増減要因



## 四半期別 実績推移



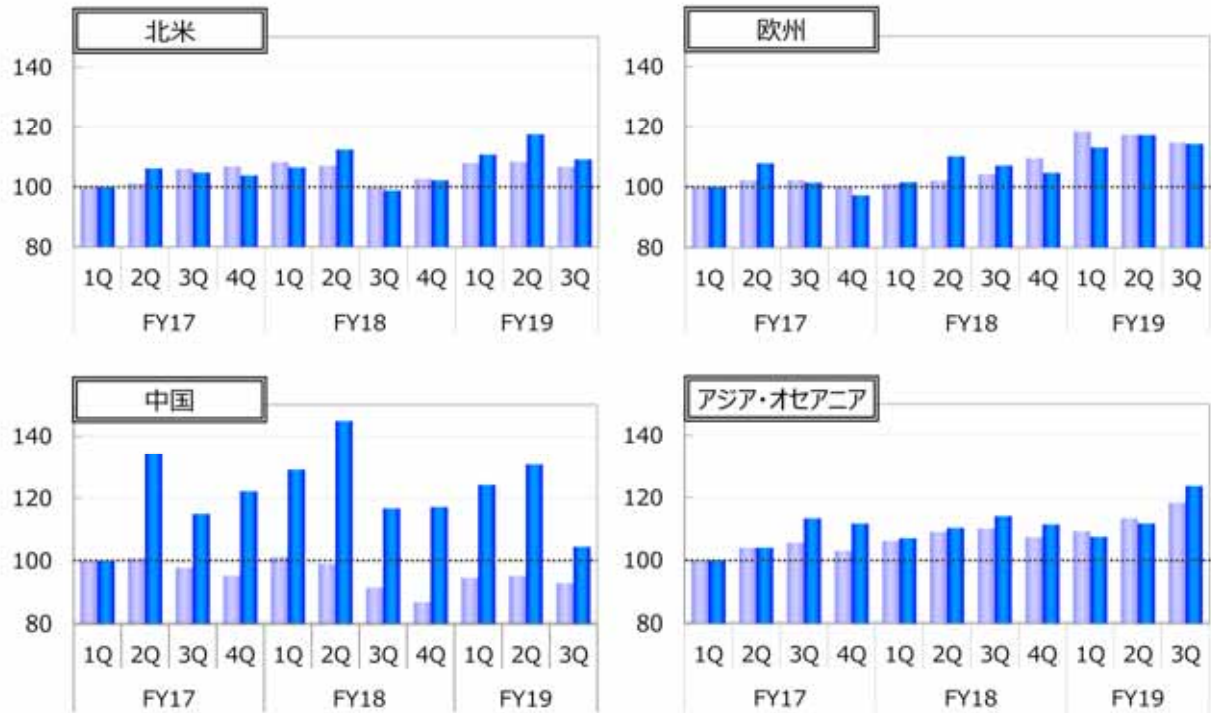
©ANAHD2020

12

- ◎ 国際旅客の状況です。
- ◎ 第3四半期累計の増収額、114億円の要因分析です。
- ◎ 旅客数要因では、新規路線の開設やエアバスA380型機の投入により、生産量が増加しました。一方で、日本発ビジネス需要の弱含みが継続しているほか、昨年10月末のウィンターダイヤ以降、中国系エアラインが供給量を大幅に拡大したことにより、中国線の競争も激化しました。これらへの対応策として、日本発レジャー需要や、アジア＝北米間の三国間需要を積極的に取り込んだ結果、60億円の増収となりました。
- ◎ 単価要因では、需要のピーク期を中心にイールドマネジメントを徹底したほか、欧米線やハワイ線の生産量増加に伴い、中・長距離路線の旅客数構成比が高まったことも影響して、55億円の増収となりました。
- ◎ 続いて、13ページをご覧ください。

## ANA国際旅客（四半期別・方面別 推移）

指数 (FY17 1Q=100) ■ : 座席キロ ■ : 旅客キロ



©ANAHD2020

13

- ◎ 方面別の供給と需要の推移です。
- ◎ 北米方面は、日本発ビジネス需要の弱含みが続きましたが、海外での販売を強化したことにより、生産量を上回る旅客キロを確保しました。
- ◎ 欧州方面は、プロモーション運賃の投入により、日本発レジャー需要や、ラグビーワールドカップの開催に伴う旺盛な訪日旅客を取り込みました。
- ◎ 中国方面は、昨年度の下期から供給量を抑制してきた中、日中間のマーケット全体の供給量は、第3四半期以降、大幅に拡大しました。当社グループの訪日旅客の取り込みは、前年を下回りましたが、単価の高い日本発需要を優先して獲得しました。
- ◎ アジア・オセアニア方面について、昨年9月以降に新たに就航した、成田＝パース線、成田＝チェンナイ線は、順調な滑り出しとなりました。香港線や韓国線で、地政学リスクの影響が見られましたが、その他の路線では、訪日旅客や北米への接続需要を積極的に取り込みました。
- ◎ 16ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

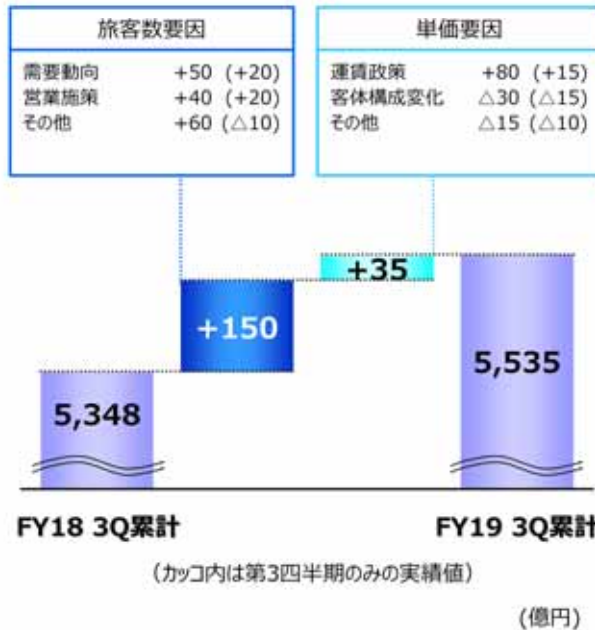
## ANA国内旅客

	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年比(%)	FY2019 第3四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	44,083	44,941	+ 1.9	14,690	△ 0.1
旅客キロ(百万)	30,971	31,945	+ 3.1	10,652	+ 1.8
旅客数(千人)	33,757	34,724	+ 2.9	11,622	+ 1.8
座席利用率(%)	70.3	71.1	+ 0.8pt*	72.5	+ 1.4pt*
旅客収入(億円)	5,348	5,535	+ 3.5	1,847	+ 1.2
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	12.1	12.3	+ 1.5	12.6	+ 1.4
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	17.3	17.3	+ 0.3	17.3	△ 0.6
単価(円) (旅客収入/旅客数)	15,844	15,940	+ 0.6	15,897	△ 0.6

\* 座席利用率のみ前年差

## ANA国内旅客（事業動向）

## 第3四半期累計 収入増減要因



## 四半期別 実績推移



©ANAHD2020

16

- ◎ 国内旅客の状況です。
- ◎ 第3四半期累計の増収額、186億円の要因分析です。
- ◎ 旅客数要因では、第3四半期も、上期までと同様に堅調な需要基調が継続しました。10月の台風19号により減収影響を受けましたが、早期発売型運賃の活用により、連休や年末年始の予約を前倒しで取り込むなど、需要の喚起に努めた結果、150億円の増収となりました。
- ◎ 単価要因では、需要の閑散期において、柔軟なイールドコントロールを実施した一方、需要のピーク期を中心に、新たな運賃制度の効果を楽しんで、単価の向上に努めた結果、35億円の増収となりました。
- ◎ 右の図は、四半期別の実績推移です。国内線の堅調な需要動向を踏まえて、単価の向上と需給適合を同時に追求した結果、第3四半期単独の座席利用率は、72.5パーセントとなりました。第1四半期、第2四半期に続き、四半期別の実績としては、過去最高を更新しました。
- ◎ 19ページをご覧ください。

## ANA国際貨物（ペリー+フレイター）

	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年比(%)	FY2019 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	5,388	5,551	+ 3.0	1,955	+ 8.7
有償貨物トンキロ（百万）	3,349	3,221	△ 3.8	1,138	+ 3.9
貨物輸送重量（千トン）	715	672	△ 5.9	239	+ 3.5
貨物重量利用率（%）	62.2	58.0	△ 4.1pt*	58.2	△ 2.7pt*
貨物収入（億円）	988	781	△ 20.9	270	△ 22.0
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	18.3	14.1	△ 23.3	13.8	△ 28.3
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	29.5	24.3	△ 17.8	23.7	△ 25.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	138	116	△ 16.0	113	△ 24.7

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## ANA国際貨物（フレイターのみ）

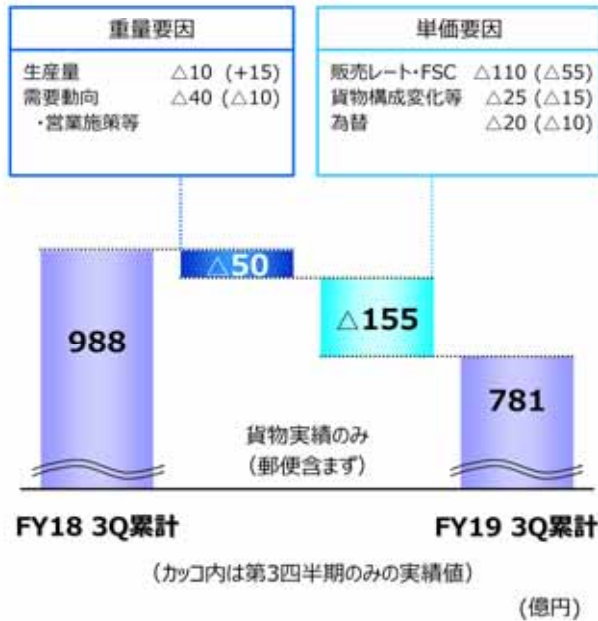
本表のデータは、P.17記載実績の内数

	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年比(%)	FY2019 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	953	1,104	+ 15.8	391	+ 13.0
有償貨物トンキロ（百万）	660	715	+ 8.3	263	+ 10.7
貨物輸送重量（千トン）	265	249	△ 5.9	88	+ 1.3
貨物重量利用率（%）	69.3	64.8	△ 4.5pt*	67.4	△ 1.4pt*
貨物収入（億円）	290	238	△ 18.0	82	△ 23.4
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	30.5	21.6	△ 29.2	21.0	△ 32.3
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	43.9	33.3	△ 24.3	31.2	△ 30.8
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	109	95	△ 12.9	93	△ 24.4

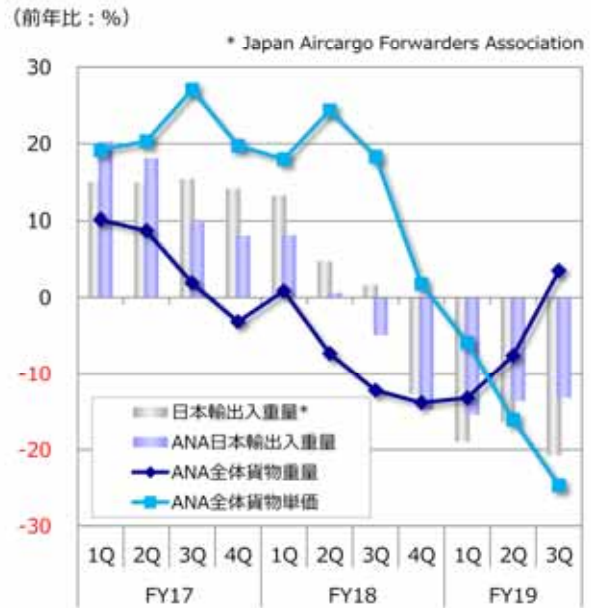
\* 貨物重量利用率のみ前年差

## ANA国際貨物（事業動向）

## 第3四半期累計 収入増減要因



## 四半期別 実績推移



©ANAHD2020

19

- ◎ 国際貨物の状況です。
- ◎ 第3四半期累計の減収額、206億円の要因分析です。
- ◎ 重量要因では、米中貿易摩擦の影響などにより、貨物需要の低迷が続いています。下期からは、アジア発北米向けの三国間需要の取り込みを強化していますが、マーケット全体の需給バランスが悪化していることから、50億円の減収となりました。
- ◎ 単価要因では、販売レートの低下や為替の円高が影響したほか、輸出入の減少と三国間貨物の増加に伴う貨物構成の変化により、155億円の減収となりました。
- ◎ 右の図は、輸出入貨物の総需要と、当社グループ実績の推移です。日本全体の輸出入重量の減少が続く中、三国間貨物の取り込みを強化することで、減収の抑制に努めました。
- ◎ 今後、需要の動向を慎重に見極めながら、供給量の調整を含めた柔軟な対応策を、さらに強化していきます。
- ◎ 23ページをご覧ください。

## ANA国内貨物

	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年比(%)	FY2019 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万)	1,301	1,326	+ 1.9	430	△ 0.6
有償貨物トンキロ (百万)	316	298	△ 5.5	106	△ 3.8
貨物輸送重量 (千トン)	305	289	△ 5.3	103	△ 3.7
貨物重量利用率 (%)	24.3	22.5	△ 1.8pt*	24.9	△ 0.8pt*
貨物収入 (億円)	213	196	△ 7.7	70	△ 3.6
ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	16.4	14.8	△ 9.4	16.4	△ 3.0
イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	67.4	65.8	△ 2.3	65.9	+ 0.2
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	70	68	△ 2.5	68	+ 0.2

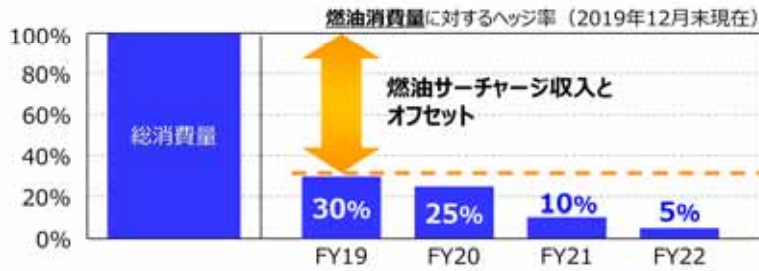
\* 貨物重量利用率のみ前年差

## 燃油・為替ヘッジ (ANA)

### 1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 国内線消費量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）
- 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外（燃油サーチャージ収入で対応）

(US\$/bbl)	FY19 3Q累計	FY19 前提
ドバイ原油	63.5	65
シンガポールクロシン	77.5	80



### 2. 為替ヘッジ 基本方針

- 不足する外貨量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）

(円/US\$)	FY19 3Q累計	FY19 前提
ドル円レート	108.7	110



Intentionally Left Blank

## LCC

(Peach Aviation、バニラエア 合計)	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年比(%)	FY2019 第3四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	9,062	8,595	△ 5.2	2,736	△ 10.6
旅客キロ (百万)	7,797	7,334	△ 5.9	2,244	△ 12.6
旅客数 (千人)	6,099	5,776	△ 5.3	1,780	△ 12.4
座席利用率 (%)	86.0	85.3	△ 0.7pt*	82.0	△ 1.9pt*
売上高 (億円) **	692	643	△ 7.1	181	△ 12.9
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ)	7.6	7.5	△ 2.0	6.6	△ 2.5
イールド (円) (売上高/旅客キロ)	8.9	8.8	△ 1.2	8.1	△ 0.3
単価 (円) (売上高/旅客数)	11,349	11,136	△ 1.9	10,190	△ 0.6

\* 座席利用率のみ前年差

\*\* 売上高に付帯収入を含む

©ANAHD2020

23

- ◎ LCC事業の実績です。  
本スライドの数値は、Peach Aviationと、バニラエアの合算値をお示しています。
- ◎ 昨年の10月27日以降、LCC事業としてPeachに運航を一元化しました。  
機材の改修や乗員の移行訓練に伴い、リソースの稼働を一時的に抑制した結果、生産量は前年に比べて減少しました。
- ◎ このような中、昨年の夏場以降、韓国線や香港線の需要が弱含んでいるほか、台湾線で他社との競合が激化したことなどの影響により、売上高は前年から48億円減少して、643億円となりました。
- ◎ 2社合計の座席利用率は、効果的なイールドマネジメントを実行したことにより、85.3パーセントと、高い水準を維持しています。  
今後は、統合の効果を最大限に発揮しながら、ネットワークの再構築を図っていきます。
- ◎ 第3四半期の決算についてのご説明は以上です。  
ご清聴、ありがとうございました。



## 航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年差	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年差
売上高	2,171	2,248	+ 77	1,152	1,192	+ 39
営業利益	122	113	△ 8	13	19	+ 5
減価償却費	33	39	+ 6	3	4	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	156	153	△ 2	17	23	+ 5
EBITDAマージン(%)	7.2	6.8	△ 0.4pt	1.5	2.0	+ 0.5pt

	商社事業			その他		
	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年差	FY2018 第3四半期累計	FY2019 第3四半期累計	前年差
売上高	1,142	1,144	+ 1	292	314	+ 22
営業利益	29	31	+ 1	19	19	+ 0
減価償却費	9	9	△ 0	1	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	39	40	+ 0	21	21	+ 0
EBITDAマージン(%)	3.5	3.6	+ 0.1pt	7.4	7.0	△ 0.4pt

Intentionally Left Blank

## ANA国際旅客 方面別実績（構成比）

		FY2019 第3四半期累計 構成比	前年差	FY2019 第3四半期 構成比	前年差
旅客収入	北米	29.8	△ 0.4	28.9	△ 0.5
	欧州	20.1	+ 0.4	19.4	+ 0.1
	中国	13.5	△ 1.4	11.5	△ 2.0
	アジア・オセアニア	30.2	△ 0.2	33.4	+ 0.3
	ハワイ	6.5	+ 1.6	6.9	+ 2.0
座席キロ	北米	31.6	△ 1.2	30.9	△ 0.8
	欧州	16.9	+ 1.1	16.4	+ 0.1
	中国	9.4	△ 0.9	9.1	△ 0.7
	アジア・オセアニア	35.6	△ 0.5	36.6	△ 0.6
	ハワイ	6.4	+ 1.4	7.0	+ 1.9
旅客キロ	北米	32.3	+ 0.1	30.9	+ 0.3
	欧州	17.0	+ 0.4	16.7	△ 0.4
	中国	9.0	△ 1.4	7.8	△ 1.7
	アジア・オセアニア	34.4	△ 0.8	36.7	△ 0.4
	ハワイ	7.2	+ 1.6	7.9	+ 2.3

## ANA国際貨物 方面別実績（構成比）

		FY2019 第3四半期累計 構成比	前年差	FY2019 第3四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	35.5	+ 0.1	34.8	△ 1.9
	欧州	15.3	+ 0.8	15.7	+ 1.3
	中国	22.3	△ 0.6	22.7	+ 0.9
	アジア・オセアニア	23.3	△ 0.3	23.1	△ 0.5
	その他	3.6	△ 0.0	3.6	+ 0.2
有効貨物 トンキロ	北米	43.4	+ 2.5	42.1	+ 1.3
	欧州	13.3	△ 2.1	14.9	△ 0.7
	中国	13.8	△ 1.0	13.5	△ 0.7
	アジア・オセアニア	27.6	+ 0.5	27.7	+ 0.4
	その他	1.8	△ 0.1	1.8	△ 0.2
有償貨物 トンキロ	北米	42.1	+ 0.3	40.6	△ 1.2
	欧州	18.0	+ 0.9	18.8	+ 1.9
	中国	13.2	△ 0.1	13.6	+ 0.6
	アジア・オセアニア	24.7	△ 1.0	25.0	△ 1.1
	その他	2.0	△ 0.1	2.0	△ 0.1

## LCC 会社別実績

※ 2019/10/27以降、Peach Aviationに運航を一元化

peach	FY2018	FY2019	前年比(%)	FY2019	前年比(%)
	第3四半期累計	第3四半期累計		第3四半期	
座席キロ(百万)	5,500	7,097	+ 29.0	2,667	+ 41.8
旅客キロ(百万)	4,794	6,059	+ 26.4	2,181	+ 35.1
旅客数(千人)	4,101	4,923	+ 20.0	1,748	+ 25.7
座席利用率(%)	87.2	85.4	△ 1.8pt*	81.8	△ 4.0pt*

Vanilla Air	FY2018	FY2019	前年比(%)	FY2019	前年比(%)
	第3四半期累計	第3四半期累計		第3四半期	
座席キロ(百万)	3,562	1,497	△ 57.9	69	△ 94.1
旅客キロ(百万)	3,002	1,275	△ 57.5	62	△ 93.4
旅客数(千人)	1,997	852	△ 57.3	32	△ 94.9
座席利用率(%)	84.3	85.1	+ 0.8pt*	90.7	+ 9.8pt*

\* 座席利用率のみ前年差

## 航空機数

	FY2018 期末	FY2019 第3四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
 Airbus A380-800	1	2	+ 1	2	-
Boeing 777-300/-300ER	29	35	+ 6	26	9
Boeing 777-200/-200ER	20	20	-	16	4
Boeing 777-F	0	2	+ 2	2	-
Boeing 787-10	1	2	+ 1	2	-
Boeing 787-9	30	33	+ 3	27	6
Boeing 787-8	36	36	-	31	5
Boeing 767-300/-300ER	29	25	△ 4	23	2
Boeing 767-300F/-300BCF	12	11	△ 1	8	3
Airbus A321-200neo	11	11	-	-	11
Airbus A321-200	4	4	-	-	4
Airbus A320-200neo	9	10	+ 1	10	-
Airbus A320-200	5	2	△ 3	1	1
Boeing 737-800	40	39	△ 1	24	15
Boeing 737-700	7	8	+ 1	8	-
Boeing 737-500	7	3	△ 4	3	-
Bombardier DHC-8-400	24	24	-	24	-
<b>ANA 計</b>	<b>265</b>	<b>267</b>	<b>+ 2</b>	<b>207</b>	<b>60</b>
 Airbus A320-200*	39	30	△ 9	-	30
<b>ANAグループ 計</b>	<b>304</b>	<b>297</b>	<b>△ 7</b>	<b>207</b>	<b>90</b>

\*バニラエアからPeach Aviationへの移管に伴い改修中の機材等を含まない

30

## グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

## グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である  
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます  
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

## グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で  
 世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針  
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)  
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)  
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)  
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)  
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)  
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

## 免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp